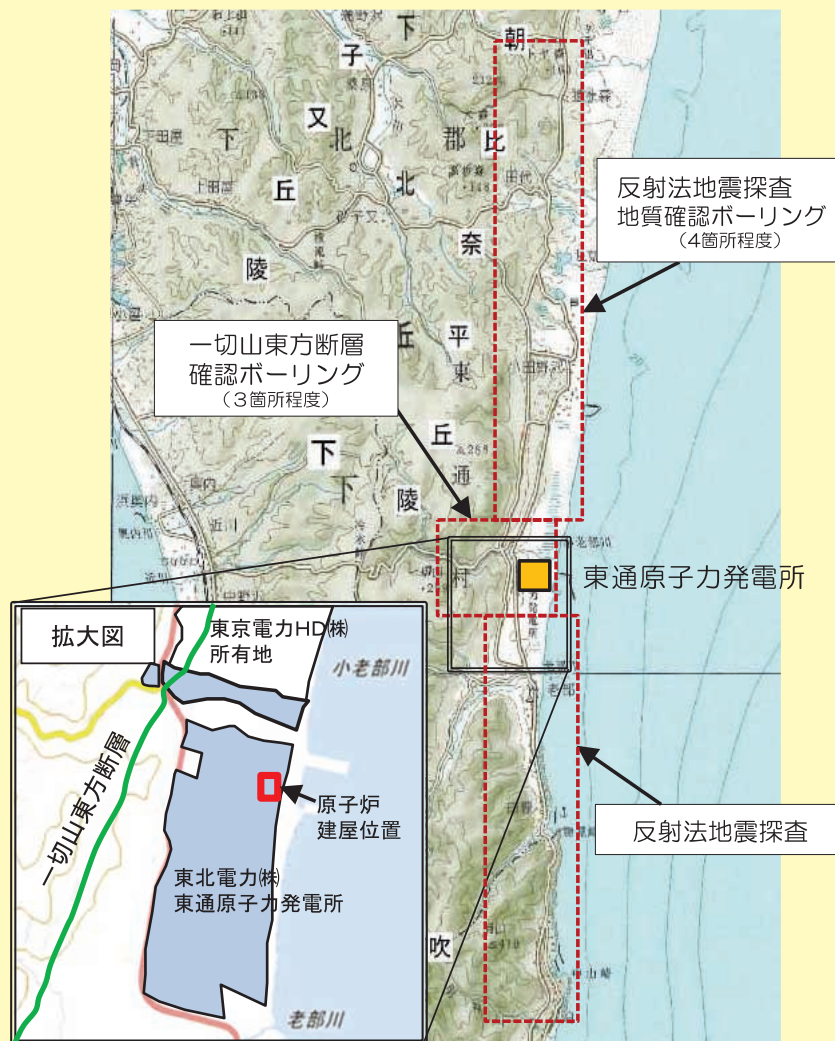


「震源として考慮する活断層」の評価に関する 補足調査を実施します

発電所の敷地～敷地周辺の断層については、現在、原子力規制委員会による新規制基準適合性に係る審査会合において、「震源として考慮する活断層」の評価に関する審査等が進められています。

当社は、^{ひときりやまとうぼう}一切山東方断層（拡大図の緑線部）を代表とした断層については、「震源として考慮する活断層」に該当しないことを説明しましたが、原子力規制委員会からは、地下深部の地質構造の解釈等について追加説明を求められていました。

《補足調査の範囲（計画）》



※調査範囲や規模は、現時点での計画であり、変更となる場合があります。

こうした中、当社の説明性をより高めるためには、地質データの拡充を図る必要があると判断し、補足調査を実施することとしました。

補足調査は、左図の範囲において、反射法地震探査やボーリング調査を2019年4月から9月末までの期間で行う予定です。

なお、2021年度中の完了を目指している安全対策工事への影響はないものと考えています。

当社としては、今回の補足調査の結果を加えることにより、審査会合で当社の考えにご理解をいただけるよう引き続き丁寧に説明してまいります。



反射法地震探査に使用する起震車(イメージ)

ボーリング調査(イメージ)

ロボット操作訓練を実施しました

1月23日・24日、原子力災害を想定したロボット操作訓練を実施しました。

訓練では、遠隔操作が可能な偵察・軽作業用ロボット計3台を使用し、災害現場を模した薄暗い特設コース内の走行やロボットのアームを使った作業などを行い、操作技術の習熟を図りました。



防護服・全面マスクを着用し、モニター映像を見ながら遠隔操作する訓練参加者



障害物をアームで掴んで除去する訓練



階段や障害物を乗り越え走行する訓練

【訓練に参加して】

訓練コース内には、自分が操作するロボットのモニター映像だけでは遠近感が把握しづらい場所もありましたが、他の操作者のモニター映像も確認するなど、操作者間で連携しながら課題をクリアすることができました。

今後も多様な現場に対応できるよう操作技術の向上に努めていきます。



機械係課
相馬 真二

無事故・無災害を願い安全祈願祭を実施しました

1月9日、田名部神社において安全祈願祭を実施しました。

当日は、発電所および協力会社の代表者が出席し、今年一年の安全を祈願しました。

今後も発電所、協力会社が一丸となって、安全最優先で業務に取り組んでまいります。



今年一年の安全に思いを込めて祈願